鷺照吟詠会 会報

第二十四号

発　行
公益社団法人
関西吟詩文化協会
公認鷺照吟詠会

祝 鷺照吟詠会 創立七十周年！

会長　大取鷺照

日差しも暖かくなり、花咲き鳥歌う好季節となりました。会員の皆様には、健やかに吟詠活動を楽しんでおられることとお喜び申し上げます。昨年は、能登半島の地震、豪雨災害など、自然災害の多い年でした。被災された方々の一日も早い復興を祈念しております。また、パリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手が大活躍し、元気をいただきました。

本会年間事業において、前期・後期競吟大会、集い、初吟会、七回の常任理事会、六回の吟詠研修会など、たくさんの会員の皆様にご参加いただき、予定通り開催することができました。ご協力ありがとうございました。

特に「集い」では、片山鷺丘先生に『菅原道真公はなぜ左遷されたか』というタイトルで特別講演をしていただきました。素晴らしい講演ありがとうございました。

さて、今年は昭和百年にあたり、本会は七十周年という節目を迎えます。恩師・佐藤鷺照先生が岡山の地で関西吟詩の種をまかれたのは、昭和三十年九月のことでした。以来七十年。一時は会員数が千人を超える時もありましたが、紆余曲折があり、現在は十二支部、二十六教室、二二七名の会員で吟詠活動に励んでいます。

七十周年記念大会は、「ピュアリティまきび」で、十一月三十日（日）に開催します。現在、着々と準備を進めており、会員の皆様の思い出に残る記念大会にしたいと思っています。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

七月十八日（金）から十九日（土）には、白鷺連合会の「吟行会」が、広島の宮島で行われます。多くの皆様にご参加いただき、白鷺の絆を深めたいと思います。

また、新しい試みとして、ポリドール競吟大会・岡山大会を七月二十七日（日）（十三時～十七時）に岡山県生涯学習センターで開催する運びとなりました。今までは、予選会も大阪に行く必要がありましたが、今年から岡山で実施することになりましたので、奮ってご参加ください。よろしくお願いします。

現在、総本部では会員増員キャンペーンを実施しております。本会では昨年、岡山大学吟詩部九名をはじめ、二十七名の方々が新入会、再入会されました。『一語一縁』、会員の皆様のお一人お一人の声掛けのおかげと感謝しております。

今年も『仲良く楽しく健やかに』のスローガンのもと、「吟の輪」を広げていきましょう。

一年間、どうぞご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

審査員研修会に参加して

岡山梢雲支部　花房　早苗

令和六年三月二十四日、講師に中谷淞苑先生をお招きして、審査員研修会が開催されました。

私は年に数回、競吟大会に出吟させていただいていますが、限られた時間内に、速やかに審査をしてくださる先生方にはいつも敬服するばかりです。今回の研修会ははじめての開催で、私には時期尚早とも思いましたが、尊敬する中谷先生のご指導を受けられるまたとないチャンスだと思い、参加を決意いたしました。

会員三十数名が参加する研修会はテンポよく進み、細かいところまでわかりやすく、また質問の時間を設けてくださるなど、私も含めて会場の皆さんが、どんどん引き込まれていくのがわかりました。

審査の基本は、先入観を持たないこと、公平公正であること、そして、自分の基準を決めたら、最後まで変えないということです。長年の経験と判断力が不可欠であると実感いたしました。

その他のポイントとして、吟法、音程、発声、発音、姿勢、詩情表現などは、すべて日常の吟詠上達にもつながることばかりです。それぞれの指針を具体的にご指導くださり、自分の吟に向き合う良い機会になりました。「あ？そうなんだ」とか、「こうすればいいのか」と自分なりに納得できることも多く、改めて、詩吟の奥深さに気づくことができました。素直に、もっと練習したい、上手になりたいという気持ちが湧いてきたのは嬉しい限りです。

音程の安定、言葉の発し方、詩情表現など、私にはたくさんの課題があります。当たり前に詩吟を楽しめる日常に感謝を忘れることなく、課題の克服に挑戦していきたいと思います。

中谷先生をはじめ、研修会開催にお世話くださった先生方、ありがとうございました。

令和六年度 鷺照吟詠会の集い

岡山有朋支部　入野　洋次

令和六年度の鷺照吟詠会の集いは、十二月一日に岡山県天神山文化プラザにて開催されました。当日は十二月に入っていたものの、寒さは気にならず、天候にも恵まれました。

開会行事に続いて各支部別吟詠が始まりました。どの支部も工夫を凝らした発表が続き、楽しませていただきました。なかでも、いくつかの支部が発表された構成吟は、とても見ごたえがありました。

岡山の偉人、岸田吟香を取り上げた中山支部。中国語の朗読を交え、李白の友情の詩を集めた梢雲支部。ナレーション入りで親について考えさせられた江陽支部。総楽支部はいつも大作を披露されますが、今回は広瀬淡窓の生き様を、演技を交えて紹介してくださいました。聞くところによると、支部旅行で実際に大分日田に行き、現地取材もするという熱の入れようだったようで、すごいことだと思いました。

我々有朋支部も皐月支部の方々と共に、岡山市南部の沖新田開発に関わり残っている『おきた姫伝説』を題材に、多田先生が創作された構成吟を披露しました。他支部同様、有朋支部も会員減少に悩んでおり、ナレーションは今回初めてＡＩを導入しました。お聞き苦しかったかもしれませんが、『おきた姫伝説』のことが少しでも伝わっていれば幸いです。

岡山大学吟詩部は、素晴らしい舞と連合吟『白虎隊』を披露されました。とても力強い吟で、卒業してもみんなそのまま鷺照吟詠会に残ってほしいと思ったのは私だけではないと思います。ぜひ卒業されたら有朋支部へお越しください。練習会場も操山公民館ですので、大学からも近いですよ。学生のみなさんには照明や舞台など裏方としても集いを支えていただきました。重ねて感謝申し上げます。

昼食後は、競吟大会の優勝者吟詠及び特別吟詠でした。みなさん素晴らしい吟をご披露してくださいました。特に岡山県連合会・吟士権の部優勝の内座さんの『一谷懐古』、昨年度の全国指導者級吟士権者の木谷さんの『逸題』は、本当に磨き抜かれた素晴らしい吟詠で、内座ワールド、木谷ワールドに惹きこまれました。まさに鷺照吟詠会を代表する素晴らしい吟でした。

休憩をはさんで新入会者紹介、会長挨拶に続いて片山鷺丘先生による、『菅原道真はなぜ左遷されたか』と題した特別講演がありました。今回、とても楽しみにしていた片山先生の講演でした。道真の詩は本当に素晴らしく、日本人の漢詩作者では一番ではないかとか、道真がどういう人生を歩み、なぜ大宰府に左遷されたのか等について詳しくご説明いただきました。やはり、詩吟をするときにはその詩の背景を理解し、作者の生き様についても知っておくことが大切だと強く感じました。片山先生、ありがとうございました。

会員全員が集まり、日ごろの練習の成果を発表するこの「鷺照吟詠会の集い」ですが、競吟大会とは違い、比較的和気あいあいとした楽しい雰囲気のうちに終えることができました。来年度は創立七十周年記念大会となりますが、鷺照吟詠会のみんなで盛り上げていければ良いなと思います。

初吟会に参加して

岡山梢雲支部　藤田　恵子

神戸の震災から三十年。穏やかな年明けを迎えた二〇二五年一月十九日、「ピュアリティまきび」で開催された初吟会に、今回初めて参加しました。

競吟大会とは違う、心地よい緊張感で進む会員吟詠は、それぞれの吟に二分間のドラマがあり、同じ吟題でも吟じる方の個性があふれ、良い刺激をいただきました。日頃はお会いすることがない講師の方々の吟詠を目の前で聴くことができ、とても勉強になりました。

今年は巳年。大取会長の、「今までの自分から脱皮して！」とのお言葉に奮起して、更に精進していこうと思います。

懇親会は、多彩な出し物のオンパレード。皿回し、初恋がテーマの貫一お宮っぽいキャストとコラボの朗読劇、コスチューム豊かなサンバ等々。会員吟詠の時にあちこちの机の下からのぞいていた謎の棒。皿回しでその謎が解けました。

また、九十四歳を筆頭に錚々たるメンバーが一堂に会し、「長寿の秘訣は詩吟にあり」を納得。笑顔が輝いていました。

カラオケは、わが梢雲支部の見せ所。トップスター三人が華やかに舞台を彩り、あっという間に終了の時間がきてしまいました。「百聞は一見にしかず」未経験の方は、来年はぜひ参加してみて下さい。楽しい思い出が増えますよ！

『西川亭のうたくらべ』

岡山総楽支部　窪田　昌子

「みなさま！ようこそ西川亭へいらっしゃいませ！」エレガントな漢服衣装をまとった中山支部の佐藤さんの透き通る声で始まりました。もちろん会場は釘付けに。

平成十四年三月から西川アイプラザで行われている「ストリートチャイルド支援のためのチャリティーコンサート」は、今年度で二十四回目。鷺照吟詠会は十回目の出演となり、二〇二五年二月十六日（日）に『西川亭のうたくらべ』という構成吟を披露しました。

千三百年ほど前の唐の都長安の料亭・西川亭でのこと。王昌齢、高適、王之渙の三人の詩人のうちで、誰の詩が一番多く歌われるのかを競う歌くらべの様子を、『胡茄歌』、『涼州詞』、『出塞』などの七題の吟と芝居で発表しました。年末からたった三回の練習で本番を迎えました。吟は毎回大取会長にご指導いただきました。王昌齢はじめ三人のセリフの言い回しや宴会の振る舞いは、お芝居なのか、それともご本人の素なのかわからないくらいの上手さ（笑）でした。歌姫たちも吟中での扇の使い方や宴会の雰囲気作りなど、徐々に工夫し合い、お互いに良くなるように助言し合いました。また、ＤＶＤは、河田轟声先生が生成ＡＩを駆使して製作して下さり、当日のＤＶＤ操作、照明、ビデオ撮影は岡山大学吟詩部の五人の学生が、着付けは中山支部の本郷さんにお手伝いいただき、チーム総力で発表しました。

何より企画構成を始め、演技指導、衣装や小道具調達などを務められた中山瞳伸先生の統括監督力の手腕を目の当たりにして、私はさらに尊敬の念を抱いた次第です。

私自身このチャリティーコンサートへの出演は初めてでした。他支部の方々とゆっくり話す機会がなかなか持てない中、優勝常連の皆さんのお茶目なところや、初めて知る！私にとって意外な一面を垣間見ることができて、どの方とも、ぐっと親近感を持つことができました。観客の方々からもご好評をいただいたようです。みんなで作っていく楽しさを体感でき、満足感いっぱいの出演となりました。

令和六年度
鷺照吟詠会競吟大会報告

事務局次長　河田　轟声

五月十九日に前期競吟大会、九月二十二日に後期競吟大会が、岡山県天神山文化プラザで開催され、音響設備が充実した会場で、出吟者の皆様に日頃の鍛錬の成果を存分に発揮していただきました。

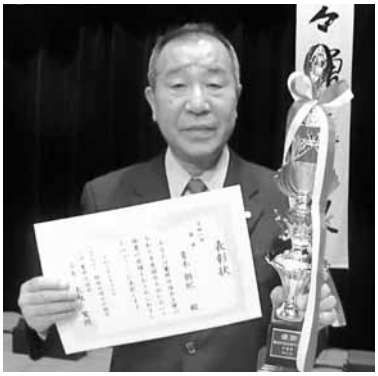
今年度は、前期と後期の出吟者数のバランスをとるため、三月の常任理事会で改善を検討し、前期競吟大会に「傘寿の部Ⅰ」「傘寿の部Ⅱ」「連吟の部」を移して実施しました。前期・後期共に各部門への出吟者が増加し、充実した競吟大会となりました。特に「連吟の部」は、他支部とのペア出場が増加しました。

（各大会の成績結果は別掲参照）

【栄えある優勝者　喜びの声】

中級の部　優勝

岡山岡南支部　青木　朝紀



このたび、前期競吟大会、中級の部で優勝という栄誉を賜り、大変光栄に存じます。

私は間の取り方が下手で、早く吟じる癖があるので、当日は、間をとり、ゆっくり吟じることを心がけました。

このたびの優勝は、坂本先生、青木先生、棚田先輩がご指導くださったおかげだと、心より御礼申し上げます。

大取会長の吟詠研修会の中で、私の苦手な二十五番の大山が大変勉強になりました。ありがとうございました

今回の賞を励みに毎日発声練習をし、平常心で吟じられるよう努力していきたいと思います。皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

傘寿の部Ⅰ　優勝

岡山岡南支部　片岡　紀久夫

武川先生が指導されていた楓教室に入門したのは、傘寿の歳でした。大きな声と高音が少しでも出るようになれば良いなと思い、休まず通う決意をして、

初日の教室に着席しました。

当初は、習うこと全てが難しく、右往左往することもありました。これもみんな一度は通ってきた道だと、自分勝手に納得して、この先何年できるかわからないけれど、牛歩でも良いから前に進むことにしました。

一つの詩ができるようになると、吟じる姿勢の注意やカラオケで歌っている時の変な姿勢も、みなさんが注意してくれます。先生がいない時は気にせずにいましたが、先生は「吟じる時は姿勢が大事ですよ」、「鏡の前で吟じなさい」と、基本的なことを指導してくださいます。

教室は高段者ばかりで、私に時間がかかり申し訳ないと思っていますが、皆さんが協力してくださり、少しずつ修正しています。なかなか前に進めませんが、歩けたときの感激を早く味わいたいと思いながら、歩行訓練のように毎日練習しました。

教室の雰囲気は良く、最高の環境で、気持ちよく勉強できます。吟じる苦痛はありますが、教室の全員が補助指導して盛り上げてくださり大変感謝しています。

恩返しができるのは何年先になるかわかりませんが、この気持ちを忘れず、一歩ずつ前に進んでいこうと思っています。

壮年Ⅰ・Ⅱ部　優勝

岡山東風支部　田中　啓子

令和六年五月十九日、前期競吟大会の壮年Ⅰ・Ⅱ部において、優勝の栄誉をいただき、誠にありがとうございました。

今回は、杜甫の『貧交行』を選びました。競吟練習の一日目に教室の先生から、感情表現について、「杜甫の怒りの感情はどうすれば出ると思いますか？」と聞かれました。私は教室で習っていない漢詩を選んでいたため、家で詩の情景を想像し、大声で素読を何回もしました。しかし、最後の練習日になっても、感情表現は難しくてできませんでした。先生が、詩の怒りを込めるところを教えてくださいました。

競吟大会当日は、落ち着いて吟じるように心掛けました。先生は、教本を見ながら「詩の意味」や「鑑賞」等、いつも時間をかけてわかりやすく、丁寧に説明してくださいます。私は、詩情表現はまだまだですが、少しでも詩文を理解して吟じたいと思っています。

教室の先生、他支部の先生、会員の皆様、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

上級の部　優勝

岡山中山支部　佐藤　昌子

令和六年度は、光栄なことにたくさんの部門で優勝させていただきました。

前期競吟大会「上級の部」、岡山県連合会競吟大会「師範代の部」と「和歌Ⅱ部」、後期競吟大会「近代詩の部」と「俳句の部」、合計五部門の優勝です。どの吟も一生懸命練習したので、優勝がいただけてとてもうれしいです。

今期最初の挑戦は、前期競吟大会の上級の部です。この時期やる気満々でなければいけないはずなのに、当の私は吟じることに自信を失い、すっかり落ち込んでいました。そんな私の背中を、大取先生がドーンと押してくださいました。普段は何も言われない先生なので、効果覿面。私の気持ちが、スパーンと吹っ切れました。その二日後の大会では、自分を信じて思いっ切り吟じました。

なんと、今までお話をしたこともなかった方が、「お腹からシッカリ声が出ていたよ」とお声をかけてくださったり、皆様から「よかったよ、おめでとう」のお声をたくさんいただいたりして、とても嬉しく励みになりました。大取先生、吟友の皆様ありがとうございました。

この一年、色々なことに挑戦させていただき、忙しい毎日でも元気に動いてこられたのは、詩吟のおかげで健康をいただけたからだと思います。諸先生方、吟友の皆様、今後ともよろしくお願い致します。

合吟の部　優勝

岡山総楽支部　渡邉　直樹

女性四人、男性一人の計五人で参加したところ「（女性の音階で）男女混合の合吟は過去に例が無いだろう」と聞かされた。ついては、男女混合となった経緯や意見を男性側の視点で書く。

八月一日、メールが届いた。「後期競吟大会の『合吟の部』七本で出吟しませんか？」とのこと。翌週、大島教室に赴くと、吟題は『白帝城（李白）』と伝えられ、「まあ、四行（絶句）なら！」と安請け合いした。

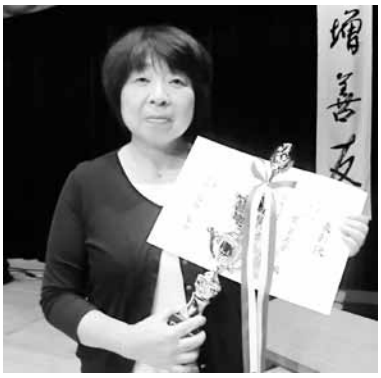
しかし、お盆前になると、吟題は「宮崎東明：晩秋弄晴で八本にしたから」とのこと。『晩秋弄晴』って知らんし、しかも「八本」。しかしながら、若輩の私に拒否権は無い。教本を開くと、特別な吟法や最高音が無いので安堵したが、一人で練習してみると一杯一杯。合同練習では、男女で声質が異なるため、思った以上に男の声が目立つので誤魔化せない。

本番は、四行なので一瞬で終了。「もう終わりか！」と思いつつ舞台を降りた。

男女混合で合吟を行うことの是非は分からなかったが、それは私一人の悩みなので、どちらでも良いのだが、折角なら二十行くらいを連合吟でやってみたいと思った次第である。

最上級の部　優勝

岡山総楽支部　空　富美子



今年度、後期競吟大会において優勝の栄誉をいただき、ありがとうございました。

今回の私の目標は、八行詩を最後までスタミナを切らさずに吟じることでした。この一年余り、声がかすれたり、咳が出たりすることが多く、思い悩む日々でした。

ある時、教室の岡田さんが、「声を出すには、発声練習をもっとやるしかない」と。今まで、喉の老化やコロナの後遺症かも、と自分自身の努力不足を言い訳にしていたことを恥ずかしく思いました。

そんな時、練習日以外に発声ができる施設を剣持さんが見つけてくださり、口の体操や音階練習、高低音や裏声発声など三十分以上かけて声を出すことで、徐々に喉の調子が戻ってきました。少しずつ声が出るようになった私に、田辺先生を始め、教室の先輩方からたくさんのご指導をいただきました。

『示姪孫湘』の教本は、いただいたアドバイスの書き込みでいっぱいです。その全てを心に刻み、今回の競吟大会に臨みました。

一番良い結果をいただけたのは、皆さんのおかげと感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

岡山県連合会
競吟大会・吟詠研修会報告

岡山県連合会事務局　石田　隆

令和六年度の関西吟詩文化協会岡山県連合会の競吟大会並びに岡山地区吟詠研修会を、八月十八日に天神山文化プラザホールにて開催しました。今年の夏は過去に例を見ない猛暑で、当日も三十五度を超える大変暑い中での大会及び研修会でした。

競吟大会には五十七名の方方々が参加され、のべ六十九名の出吟がありました。各部ごとの参加者数は後述の通りです。今年も最上級の部には十七名、また上級の部にも十二名と多くの参加がありました。願わくば、新人や初級の部の参加者がもっと増えればいいなと思います。

各部ごとの参加者

○新人の部……　一名
○初級の部……　四名
○上級の部……十二名
○師範代の部…　二名
○準師範の部…　五名
○和歌Ⅰ部……　六名
○和歌Ⅱ部……　九名
○シニアⅠ部…　六名
○シニアⅡ部…　七名
○吟士権の部…十七名

ご参加いただいた会員の皆様には、本年度も熱の入ったレベルの高い吟で、素晴らしい練習の成果を発揮していただきました。ありがとうございました。

吟詠研修会では総本部より会長古田哲壮先生、指導部長の藤本曙冽先生、秀詠グループの今井彩黎先生に昨年度に引き続きお越しいただきました。藤本先生には新教本の『聞白楽天左降』『八陣図』の二題の講習をしていただきました。丁寧なご指導をいただき、新しい吟を学ぶ喜びを感じました。

吟詠実技研修では、例年のように、会員を対象にどうすれば吟が上達するか、個々人の吟に合わせて丁寧にご指導いただきました。ご指導いただいた三名の方々にはとても素晴らしい機会になったのではないかと思います。

最後に本部講師吟詠として三人の先生方に範吟をいただき、研修会を締めくくっていただきました。素晴らしい吟に触れることで、自分の吟を見直し、また練習に励みたいと思うと同時に、この素晴らしい吟詠という文化をより多くの皆様に伝えたいという思いを強くしました。

競吟大会に向けて練習を重ねてこられた皆様には、今後ますますの精進・ご活躍をお祈りいたします。本年度の開催にあたっても、多くの理事・役員の方々に様々なところで献身的にご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

本競吟大会は総本部の全国大会の出場者選考会を兼ねており、今回上位入賞された方々には十一月・十二月に開催される全国大会でのご活躍をお祈りいたします。

岡山県連合会とはいえ、本年度の参加者は全員我々鷺照吟詠会の会員です。本会の前期・後期競吟大会も含め、年間の競吟大会の在り方を考える時期に来ているのかも知れません。

また、吟詠研修会も内容がややマンネリ化してきていると思われるので、来年度以降の在り方を事務局としても考えていきたいと思います。いいアイデアやご意見があれば、担当講師の先生や本会理事までお知らせください。

【栄えある優勝者　喜びの声】

準師範の部　優勝

岡山江陽支部　川根　幾恵

諦観か怨言か、それとも達観か？

春は自ら往来し、人は送迎す。
花を落とすの雨は、花を催すの雨…

「美しい詩だなぁ」。年配の方が渋く吟じるのを聞き、また若い女性が美しく吟じるのを聞き、そんな印象をもっていました。自然や人の世の無常を歌った美しい詩、いつか多少なりとも風情を解し、表現できるようになったら吟じてみたいと思っ

ていたのです。

今年、思い切って一度チャレンジしようと、教本を開き、詩のバックグラウンドや、作者頼鴨崖の来歴などを読んで、自分の思い込みに気づきました。その罪を詳しく吟味されることなく、たった三十五歳で処刑された鴨崖の生涯を知ってしまうと、「愛憎何事ぞ、陰晴を別つ」「一様の檐声、前後の情」に込められた「彼の思い」に気持ちが囚われてしまいました。彼は国の行く末を思って若い情熱を燃やしたのでしょうが、対応は人によって、また時に応じて評価が変わる…。獄中の「彼の思い」とは、諦観か、怨言かそれとも達観か…。三十五歳の私なら、間違いなく怨言だったでしょう。三十年以上年を経た今の私なら諦観でしょうか…。

『獄中作』の詩からは、純粋な情熱と確固たる信念をもって勤皇攘夷の運動に参加し、その証のように処せられることに誇りさえあるのだろうと思いました。しかし、彼が自ら「古狂生（世に受け入れられない正直で志の高い人）」と号し、「誰か古狂生と私の名を刻んでくれるだろうか」の一句に、自分が生きたことを覚えていて欲しいという、家族からも音信の絶えた彼の寂しさを感じます。昔は若者とは言わなかったでしょうが、三十五歳の若者です。若者でなくとも人の心は揺れるもの。飄々とまた従容として受け入れているようで、やはり、迷い、揺れたでしょう。それならば、理解しようと迷う私の気持ちが、そのまま彼の気持であったかもしれないとも思いました。

岡山県連合会大会本番では、鴨崖の心情どころか、ただ自分と闘いながら吟じる「いつもの私の吟」でした。ただ、こうして鴨崖の沼にはまってしまったことも、詩吟の楽しみの一つでした。

大会の度に唱和する『巻頭言』の中ほどに、「ただ之を好むも未だ可ならず、其の意を悟り其の義を楽しむにいたりて完きなり。…己れ遂に詩中の人となる、…」とあります。私は詩中の人とはなれませんでした。修養の道ははるかに遠い。でも、数年後の私がどんな『春簾雨窓』を吟じることができるのか、今はそれもまた楽しみです。

シニアⅠ部　優勝

岡山東風支部　安井　一雄

このたびは、シニアⅠ部で優勝という栄誉をいただき、この上ない喜びです。

私が、七十五歳で詩吟を始めたのは、認知症予防が第一の目的でした。だんだんはじめの意気込みが弱くなり、練習に気持ちが入らなくなりました。吟はなかなか上達せず、また力みすぎるため、音程が外れて悩んでおりました。そうした中、片山鷺丘先生から口の開け方のご指導をいただきました。また、ユーチューブにて関西吟詩文化協会、華洲会会長の山口先生が詩吟を指導しておられるのを拝見し、大変参考にさせていただきました。

本大会の前に行われた、令和六年度鷺照吟詠会前期競吟大会「傘寿の部Ⅰ」において準優勝をさせていただき、気持ちが前向きになりました。口の体操、口の形、助詞を大事にし、綺麗な声等を重視して、練習にも気持ちが入るようになりました。吟題や詩の意味を理解し、力まず吟じることにも専念しました。

今回はたまたま優勝できましたが、心身の健康に充分気をつけ、今後も詩吟に精進します。

総本部青年部吟詠大会に参加して

岡山岡南支部　内座　由紀葉（現・岡山皐月支部）

令和六年十月十四日（月）東大阪市文化創造館において、全国青年部吟詠大会が開催されました。

幼少年の吟詠から始まり、和歌で参加させて頂いた構成吟を含む八部からなります。三年ぶりの開催とあり、高さのある広々とした大ホールは、コロナ前を思わせる大勢のお客様で埋め尽くされました。

当日は出演準備のため、他プログラムを鑑賞する時間があまりない中、日頃の練習の成果を元気良く発表する幼少年の吟詠には、足を止め聞き入りました。その身体には広すぎる程の舞台中央から、客席に向け胸を張り真っ直ぐ吟ずる姿や、幼少年とは思えない落ち着きのある堂々とした吟に、会場から大きな拍手が送られました。会員減少の近年ですが、吟界の未来に思いを馳せるとともに、頼もしさを感じました。この大きな舞台での拍手や歓声が、楽しく詩吟を続けるきっかけに繋がればと願います。

また、総本部五名の部員が見学された岡山大学吟詩部錬成大会の様子が、ビデオ上映されました。この時の青年部の活動についての詳細は『吟詩日本』二〇七号に掲載されています。

その他には青年部吟詠、関西吟詩・他流派青年部優秀吟者吟詠、アニメ風紙芝居、中華吟誦研究会による発表等、多彩なプログラムでした。

今回参加させていただいた構成吟『土佐日記』は、平安時代の紀貫之をとりあげたもので、二〇二三年の年末から総本部の青年部役員を中心に企画検討が始まり、ZOOMを通じての練習会を重ね準備しました。錚々

たる優秀吟者に囲まれての構成吟に加え、苦手とする和歌担当とあり、プレッシャーが大きく、情けないことに本番の和歌は小さくまとまってしまったように思います。課題は残るものの、青年部員による素晴らしいナレーションや圧倒される吟や和歌、演者を舞台袖から間近に感じることが出来、良い刺激となり勉強になりました。閉会後、ロビーでの参加した皆様のお見送りの際に届いた声と笑顔で、少しだけほっとしました。

近年、有難いことに総本部の青年部の方々と交流する機会をいただくことが増え、色々と気付きや感じる部分があります。吟力向上や吟を続けるには、先生方をはじめ、日頃から練習をしている方々の存在が大きいと、最近特に実感しています。現在、当たり前に詩吟が出来る環境に感謝を忘れず、今後も声を掛け合いながら、吟と向き合っていきたいと思います。

最後になりましたが、教本にはない和歌の譜付にご協力いただきました内田先生、ありがとうございました。

『時空（とき）を超えて』
～白鷺連合会　青年部大会＆交流会に参加して～

岡山中山支部　木南　春樹

令和六年八月四日（日）、ホテルプラザオーサカにて、第五十七回青年部大会と第六回交流会が合同で開催され、大取会長、河田副会長、内座さん、私の四名で参加しました。当日は、大阪も三十五度を超える猛暑日で、汗を拭きながら会場入りしました。会場内は一一三名の参加者で、熱気に包まれ圧倒されました。

会員吟詠、友好青年部来賓吟詠と続き、お馴染みの「飛び入り吟詠」では、司会をさせていただきました。鷺声吟詠会の藤原凛声さんに助けていただきながら、何とか大役を終えることができました。

令和六年四月に就任された藤山青年部長のもと、一番力を入れていたのは、『源氏物語―ＦＡＬＬ　ＩＮ　ＬＯＶＥ―あれも愛、これも愛…』と題した、紫式部の『源氏物語』をもとにした構成吟でした。内座さんは菅原道真作『九月十日』を、私は高啓作『尋胡隠君』を吟じました。

交流会では、谷澤暁声先生と塩路澄誠先生の新教本講習のあと、参加者十組選抜の「交流吟詠」があり、絶句を連吟しました。

懇親パーティーは、テーブルごとに出し物があり、中谷淞苑先生を中心とした、中村美津子の『島田のブンブン』を独特の振付で、場の雰囲気を圧倒していました。

私と白鷺青年部との出会いは、二十七年前に遡ります。当時の鷺照会青年部で、池上茂部長の後任になり、白鷺青年部大会に、共に参加したのが初めてでした。以来、都合のつく限り参加させてもらっています。家庭の事情もあり、今回数年ぶりに青年部大会に参加し、吟友の刺激をいただきました。

吟界全体が会員減少、高齢化という大きな課題に直面しています。白鷺連合会も同様に厳しい状況で、〝青年〟部といえども、事実上年齢制限のない青年部。若い会員の方々は、会にとっての宝です。藤山部長を中心に、白鷺青年部が益々発展するようお祈りしております。

追悼の言葉

岡山総楽支部　田辺　博通

河本正章さん、謡照さん。あなたとの別れがこんなに早く来ようとは。一昨年夏ごろから体調の異変を感じ、自ら病院を受診して秋に手術を、そして昨年二月に総社教室で久々に皆と再会できて喜び合ったのに。病魔は少しの猶予もなく、令和六年五月三十一日、息子さんからの電話で亡くなられた由、連絡がありました。その十日ほど前、貴方から「いま病院だけど会いたい」と知らせがあり、ただならぬ気配を感じつつ面会した時、「その時」の頼みを伝えたかったということでした。「わかった」と握手すると力強く握り返してくれたけれど、あとに返す言葉も見つかりませんでした。

河本さんは昭和五十年の入会ですが、私達は後楽教室と総社教室の合併以来、三十数年の付き合いでした。総楽支部では教室創設十周年の時から、構成吟の題材に目的地を定め、一泊のバス旅行をしてきましたが、いつも前日にマイクロバスを借り、当日運転し最後に返却してくれたのが河本さん。旅先は、観光名所ではなく偉人たちの生家だったり、ひなびたお寺や住居跡であったり。また街中の食事処では、駐車スペースの確保まで、とにかく地理に明るく、どんなところでもスイスイと私達を案内してくれる。それもそのはず、奥様と事前に下見をしてくれていたのですね。旅先で宿に着いたら、奥様に「無事ついた」と、連絡を欠かさない河本さん。行った先は中国、四国、近畿、北陸地方まで、本当にお世話になりました。

また、鷺照吟詠会でも片山鷺丘先生が会長の時には、事務局

長を六年間務められ、苦労をいとわない河本さんでした。私は家も近く、年も一緒でアルバイトも一緒。家族の事や畑仕事からお寺やお墓のことまで、長い時間、話が尽きませんでした。ダジャレで周囲を和ませてくれるムードメーカーでもあり、お酒を飲まないあなたは、私の足となり初吟会から春のバーベキュー、暮れの忘年会まで、送り迎えをしてくれました。

そして、河本さんとの約束通り、お別れの際には、広瀬淡窓の『思親』を合吟させていただきました。

感謝の気持ちを込めて、ありがとう、河本さん。あなたは、皆の心の中にいつまでも生き続けている仲間です。

享年　七十八歳

故安東正二さんに捧げる

岡山中山支部　河田　博行

「畑をやってみんかな？」

岡山に帰り、詩吟を再開して半月ほど経った頃、安東さんからかけてもらった一言である。

「永年、サラリーマン生活をしていたから、畑仕事なんかとても出来ませんよ」

「ワシが教えちゃるけえ、やってみられえ」

「鍬も持ってないですよ！」

「道具ならなんぼうでも儂のを貸しちゃるけえ」

「・・・・・」

十四年前の、そんな会話を思い出しながら、今日も私が借りている畑と、隣接する安東さんが借りていた畑を耕して来た。

二〇一〇年八月末、退職して四十年ぶりに帰郷した岡山。しかも、中学三年生になって山奥から移転して来た町。中学一年間と高校四年間の実質五年間暮らしただけの故郷（？）。帰郷したものの、まさに「浦島太郎」状態。今思うと、詩吟の再開よりも身近に友達を求めたくなって、一宮公民館教室に顔を出したのかもしれない。

「儂の横に座られえ！」

真っ先に声をかけてもらったのが教室長の安東さんだった。

「行動的な人、面倒見の良い人」誰もが安東さんの人柄をこう評す。吟友であり、畑の師匠であり、尊敬すべき人生の先輩。初吟会の余興のアイデアを一緒に考えた事も、今では懐かしい思い出となった。釣り、四手網漁、猪の解体、旅行、飲み会…。わずか十四年足らずであったが、兄弟のように濃密なお付き合いをさせていただいた。

昨年の一月に肝臓癌が見つかり、四月から教室長を委譲して入院・闘病生活を開始、入退院を繰り返しておられた。六月末頃ご長女から、「担当医から余命一ヶ月宣告を受け、本人には伝えていないが、間もなく緩和ケアになり、家族以外は面会出来なくなる。親戚という名目で面会してもらえないか？」との話があり、七月初めに面会させていただいた。酸素吸入管の装着と抗癌治療の影響もあってか、言葉は聴き取りにくかったが、目に涙を浮かべながら握手を求めて下さった。

八月二十一日ご逝去。家族葬に特別に参列させていただいた。優しく微笑みかけるご遺影に手を合わせながら、ふと思った。家族葬でなかったらどれだけ多くの参列者があっただろうか？詩吟教室、スポーツ少年団剣道部、卓球クラブ、グランドゴルフ仲間、地区敬老会…。

出棺前にご家族が詩吟教本と剣道着をご遺体の胸の上に納められた。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

享年七十八歳

南九州旅行の思い出写真

自由投稿

明関大会復活に参加して

岡山中山支部　稲井　英人

休部、廃部、コロナ危機を経て、二〇二四年六月二十二日、第三十四回明治大学関西大学交歓吟詠発表大会が開催されました。実に七年ぶりです。

昭和三十三年四月より、学生吟界関東の雄・明治大学、関西の雄・関西大学が始めた伝統ある吟詠大会です。一年毎に明治大学、関西大学で開催してきました。

今回は、関西大学千里丘キャンパス旧特別講堂。部員六名と少数の為、運営にＯＢ会が賛助として開催。両大学、学歌斉唱、エール交換にて始まりました。独吟、合吟、剣舞とプログラムは進み、あっという間に時間が過ぎ去りました。賛助校もなく、身内だけのささやかな大会ですが、部員達の熱気は、充分伝わって来ます。良く頑張っています。ＯＢとしては感無量。

吟詠発表大会が開催される限り、出かけて行こうと思っています。

頑張れ現役!!

なお、当日は、月刊誌『吟剣詩舞』が取材に来られていました。大会の様子は九月号に掲載されています。

追記

現役時代の明関懐古

東京に乗り込む時は、大会前々日の夜行バスで出発します。執行部員は、蛮カラ気取りで吟詩部の羽織袴、高下駄。前日、東京見物に連れて行って貰いますが、ずっと同じ格好。小生もこの出で立ちで乗り込みました。

ボリビア大冒険

岡山皐月支部　柿本　みはる

昨年末からボリビアへ。ボリビアは南米中央部にあり、国土はアンデス山脈と南部は熱帯雨林地方に跨ります。日本との時差は十三時間、片道二日を要します。羽田から米国、パナマを経てボリビアへ。疲れました。ワシントン空港で食べたピザは高い！パナマでは運河を見に行くバス停で、ドレッドヘアの青年に日本語で話しかけられびっくり。彼は運河で働く大学生。暇だから日本語を勉強しているのだそうです。勉強はナルトやドラゴンボール等の漫画やYouTubeでするとか。日本の漫画は人気で、ボリビアの市場でも売っていました。

さて、娘がJICAで派遣されたサンタクルスの沖縄移民の地で、早々に、牛の解体を見ることに。牛の悲しそうな目。命を頂くことを改めて知りました。また、一世の方から、何もない密林に連れて来られ、蚊が涌く溜水を飲んで開墾したと聞き、ご苦労が偲ばれました。皆は仲良く、優しく、私達の歓迎会も開いてくれましたが、私は疲れと時差ぼけで苦しんでいました。その夜、南十字星が見られましたよ。

その後、ポトシ（標高約四〇〇〇メートル）へ。そこで高山病にかかり、頭痛と不眠に悩まされ、銀山見学は中止。薬屋はいたる所にあります。こちらへ来て驚くのはコカが合法ということ。鉱山労働者は、今も低酸素と劣悪な環境で重労働をしているので、コカの葉を噛んで働いています。コカを常用して歯が抜け、インプラントにしたと現地の人から聞きました。

ボリビア観光の名所は、ウユニ塩湖（標高約三七〇〇メートル）。一二〇キロメートル×二五〇キロメートルの湖はアンデス山脈が隆起した時にできた大西洋の塩水の湖。水が流出しないために今も塩水のまま。雨期（十二月～三月）には塩の結晶の上に水が溜まり、湖はほぼ平坦なために、その上にある景色を鏡のように映し出す様は絶景です。

大自然の中では人間界の欲望なんて小さなこと。ただいるということで充実している感じ。詩吟をしてこんな感覚がもてれば幸せだろうなと感じました。

水墨画

『黄山雲海図』

岡山中山支部　大倉　時男

雪舟ゆかりの宝福寺を訪れた折、水墨画に興味を持ち、昨年四月から同じ公民館の水墨画教室に通い始めました。これは、六月に台湾旅行した時に、中国料理店に掲げてあった絵を帰国後、模写したものです。

■令和六年度 鷺照吟詠会 前期競吟大会

令和六年五月十九日（日）
岡山県天神山文化プラザ

新人・初級の部
優　勝　新谷　益代（総楽）
準優勝　渡邉　直樹（総楽）

中級の部
優　勝　青木　朝紀（岡南）
準優勝　本郷田鶴子（中山）

傘寿の部Ⅰ
優　勝　片岡紀久夫（岡南）
準優勝　安井　一雄（東風）
第三位　北村　恭子（岡南）

傘寿の部Ⅱ
優　勝　棚田　公夫（瀬戸）
準優勝　内座　弘子（岡南）
第三位　福森美津子（中山）

壮年Ⅰ・Ⅱ部
優　勝　田中　啓子（東風）
準優勝　川村　洋子（梢雲）

壮年Ⅲ部
優　勝　田中　好子（中山）
準優勝　林原　茂樹（総楽）
第三位　青木　耕二（岡南）

上級の部
優　勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　藤原美喜夫（江陽）
第三位　川根　幾恵（江陽）

連吟の部
優　勝　新谷　益代（総楽）
虫明　節子（中山）
準優勝　内座由紀葉（岡南）
内座　弘子（岡南）
第三位　花房　早苗（梢雲）
剣持　和江（総楽）
第四位　石田　隆（有朋）
木南　春樹（中山）

合吟の部
優　勝　空　富美子（総楽）
渡邉　直樹（総楽）
新谷　益代（総楽）
白神　陽子（総楽）
剣持　和江（総楽）
窪田　昌子（総楽）
準優勝　中尾　惠（中山）
本郷田鶴子（中山）
福森美津子（中山）
田中　好子（中山）
佐藤　昌子（中山）
第三位　本郷　勉（中山）
嶽　惣爾（中山）
木南　春樹（中山）
河田　博行（中山）
小川　泰昭（中山）
大倉　時男（中山）
稲井　英人（中山）
池上　茂（中山）

■令和六年度 鷺照吟詠会 後期競吟大会

令和六年九月二十二日（日）
岡山県天神山文化プラザ

和歌の部
優　勝　新谷　益代（総楽）
準優勝　中尾　惠（中山）
第三位　川根　幾恵（江陽）
第四位　田中　好子（中山）
第五位　藤原美喜夫（江陽）
第六位　柿本みはる（皐月）
入　賞　竹原　美子（梢雲）
入　賞　中塚　清司（中山）

俳句の部
優　勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　新谷　益代（総楽）

近代詩の部
優　勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　難波　正敏（東風）
第三位　内座　弘子（岡南）

新人の部
奨励賞　大西　英利（中山）

初級の部
優　勝　新谷　益代（総楽）
準優勝　片岡紀久夫（岡南）

上級の部
優　勝　中尾　惠（中山）
準優勝　佐藤真知子（総楽）
第三位　本郷田鶴子（中山）
第四位　田中　啓子（東風）
第五位　高塚　貫一（総楽）

師範代の部
優　勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　竹原　美子（梢雲）

準師範の部
優　勝　川根　幾恵（江陽）
準優勝　虫明　隆二（梢雲）

最上級の部
優　勝　空　富美子（総楽）
準優勝　池上　茂（中山）
第三位　岡田　正和（総楽）
第四位　花房　早苗（梢雲）
第五位　剣持　和江（総楽）
第六位　田辺　博通（総楽）
入　賞　柿本みはる（皐月）

■令和六年度 岡山県連合会 競吟大会

令和六年八月十八日（日）
岡山県天神山文化プラザ

和歌Ⅰ部
優　勝　新谷　益代（総楽）
準優勝　中尾　惠（中山）
第三位　田中　啓子（東風）

和歌Ⅱ部
優　勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　内座由紀葉（岡南）
第三位　池上　茂（中山）
第四位　川根　幾恵（江陽）

シニアⅠ部
優　勝　安井　一雄（東風）
準優勝　北村　恭子（岡南）
第三位　中塚　清司（中山）

シニアⅡ部
優　勝　棚田　公夫（瀬戸）
準優勝　難波　正敏（東風）
第三位　福森美津子（中山）

吟士権の部
優　勝　内座由紀葉（岡南）
準優勝　中山　理恵（梢雲）
第三位　坂本　朋義（岡南）
第四位　空　富美子（総楽）
第五位　池上　茂（中山）
第六位　内田　順子（皐月）
入　賞　岡田　正和（総楽）

■第六十三回 白さぎ吟詠の集い競吟大会

令和六年四月六日（土）
尼崎エーリック

新人の部
準優勝　新谷　益代（総楽）
入　賞　立木　南（岡南）

上級の部
準優勝　川根　幾恵（江陽）
入　賞　中尾　惠（中山）

傘寿②の部
入　賞　内座　弘子（岡南）

和歌の部
入　賞　中山　理恵（梢雲）
入　賞　新谷　益代（総楽）

入賞　中尾　恵（中山）

合吟の部

優勝　田中　好子（中山）
河原　圭子（中山）
佐藤　昌子（中山）
中尾　恵（中山）
内座由紀葉（岡南）
剣持　和江（総楽）
空　富美子（総楽）
新谷　益代（総楽）
鈴木　一子（江陽）
川根　幾恵（江陽）
柿本みはる（皐月）
中山　理恵（梢雲）
花房　早苗（梢雲）

最上級の部

優勝　内座由紀葉（岡南）
第三位　空　富美子（総楽）
入賞　剣持　和江（総楽）

■令和六年度
関西吟詩文化協会総本部
全国新人中間層競吟大会

令和六年十一月十日（日）
大東市立市民会館
（キラリエホール）

和歌の部

第四位　新谷　益代（総楽）
第五位　上江　勝志（総楽）

初級の部

第六位　新谷　益代（総楽）

上級の部

入賞　中尾　恵（中山）

■令和六年度
関西吟詩文化協会総本部
全国指導者級
吟士権者決定吟詩大会

令和六年十二月八日（日）
高槻城公園芸術文化劇場北館

師範以上（吟士権）の部

第六位　中山　理恵（梢雲）
入賞　内座由紀葉（岡南）
入賞　坂本　朋義（岡南）

師範代の部

入賞　佐藤　昌子（中山）

和歌の部

入賞　佐藤　昌子（中山）

シニアの部

入賞　棚田　公夫（瀬戸）

■第五十一回ポリドール
全国吟詠コンクール
関西地区予選

令和六年六月二日（日）
大阪市立此花区民ホール

和歌の部

入賞　池上　茂（中山）

青年の部

入賞　虫明　隆二（梢雲）

壮年の部

優勝　池上　茂（中山）
入賞　川根　幾恵（江陽）

■第五十一回ポリドール
全国吟詠コンクール
決選大会

令和六年九月二十九日（日）
大東市立市民会館

和歌の部

優勝　池上　茂（中山）

青年の部

入賞　虫明　隆二（梢雲）

壮年の部

優勝　池上　茂（中山）
上位入賞　川根　幾恵（江陽）

令和六年度
慶祝・吟功賞・昇格・昇段

■慶寿祝

卒寿　星野　厳将（江陽）
北村　繃恭（岡南）
米寿　嶽　鷲爾（中山）
深井　耀照（梢雲）
傘寿　坂本　繃照（岡南）
松田　英丘（総楽）
今井　瑞華（梢雲）
喜寿　青木　琥真（岡南）
髙橋　通伯（総楽）
丹藤　優照（総楽）

■吟功章

上師範　田中　咲声（中山）
池上　醒照（中山）
師範　今井　瑞華（梢雲）
準師範　渡辺　瀧南（総楽）
師範代　前田　貴一（岡大）

■昇格

三段　清水　寛太（岡大）
前田　鉄兵（岡大）
土持　弘（総楽）
片岡紀久夫（岡南）
小渡　航輝（岡大）
上月　将司（岡大）
新谷　益代（総楽）
河合　祇希（岡大）
東　太陽（岡大）
本郷　鷲鶴（中山）

二段　東　太陽（岡大）
海士部あきこ（岡大）
奥田あかり（岡大）
片山千佳子（岡大）
河合　祇希（岡大）
笹内　霞（岡大）
新見　美月（岡大）
中川　七海（岡大）
岡本　和航（岡大）
古瀬　裕智（岡大）
王　燕翎（梢雲）
渕上　侑希（岡大）
宮本　晴生（岡大）
西山　宗太（岡大）

初段　花房　鴿笙（梢雲）
難波　立耀（東風）

■昇段

十段　河田　轟声（中山）
九段　木南　駿照（中山）
八段　池下　繃煌（岡南）
七段　助田　通範（総楽）
六段　浅野　繃馨（岡南）
五段　青木　繃紀（岡南）
四段　葉廣　千夏（岡大）
本郷　鷲蒼（中山）

■会員増員表彰

個人表彰　木谷　睨秀（有朋）

新教場開設　池上　醒照（中山）

令和７年度　公認 鷺照吟詠会 年間事業計画

月	鷺照吟詠会 行事		鷺照吟詠会 研修会		白鷺連合会		関西吟詩総本部		岡山県連合会	
7/3	9 23	⑦常任理事会 （岡山県生涯学習センター） 総会 （岡山県生涯学習センター）	9	⑥研修会 （師範代）	15	常任理事会⑧	1 15	正副会 正副・理事会	23	総会 （岡山県生涯学習センター）
4	13	①常任理事会 （岡山県生涯学習センター） 会報発行			5 19	競吟大会 （エーリック） 常任理事会①	5 19	正副会 正副・理事会		
5	25 〃	前期競吟大会 （岡山県生涯学習センター） ②常任理事会	25	①研修会	4 〃	総会 常任理事会②	10 17	元老相談役参与正副会 正副・理事会		
6					14	常任理事会③	7 14 15 22	総会・正副会 正副・理事会 特別研修会 昇格試験（地方）		
7	13 〃 27	③常任理事会 （岡山県生涯学習センター） 合同昇段試験 ポリドール吟詠会 第１回コンクール岡山地区大会 （岡山県生涯学習センター）	13	②研修会 （師範）	18 ～ 19	白鷺連合会 吟行会 in 広島	5 20	正副会 昇格試験 （師範代・準師範・師範）		
8	24	④常任理事会 （岡山県生涯学習センター）			9 31	常任理事会④ 青年部大会 （西成区民ホール）	2 9 17	正副会 正副・理事会 吟詠普及研修会（岡山）	17	競吟大会 （岡山県天神山文化プラザ）
9	21	後期競吟大会 （岡山県生涯学習センター）	21	③研修会			6 14	正副会 碑前際 研修会		
10	19	⑤常任理事会 （岡山県生涯学習センター）			11	常任理事会⑤	4 11 26	正副会 正副・理事会 全国吟詠大会in大阪		
11	30	70周年記念大会 （ピュアリティまきび）					1 9 16	正副会 新人・中間層大会 研修会 （師範・準師範・師範代）		
12					13	常任理事会⑥	6 7 13	正副会 師範代・準師範・吟士権者大会 正副・理事会		
8/1	18	初吟会 （ピュアリティまきび）			11 〃	新年互礼会 常任理事会⑦	10 12	正副会 代議員会議・新春吟詠大会 （都ホテル・尼崎）		
2	15	チャリティーコンサート ⑥常任理事会 （岡山県生涯学習センター）	15	④研修会 （準師範）			7 ～8 14	吟道大学 正副会		
3	8 22	⑦常任理事会 （岡山県生涯学習センター） 総会 （岡山県生涯学習センター）	8	⑤研修会 （師範代）	14	常任理事会⑧	7 14	正副会 正副・理事会	22	総会 （岡山県生涯学習センター）

編集後記

今号は、自由投稿が三点あり、趣きのある仕上がりになったと思います。詩吟関係の原稿や自由投稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

岡山県連合会競吟大会・吟詠研修会の画像を紛失するというミスがあり、その後、各自で写真撮影をしていただいた方々には、この場をお借りして改めてお詫び申し上げます。

本年は当会の七十周年にあたり、記念すべき年となります。現在六十四歳の私が生まれる前から活動が続けられてきたことを思うと、その長い歴史に敬意を抱き、会に所属していることを誇りに思います。

昨年、母が施設に入所し、介護中心の生活が一段落しました。精神的にも時間的にも少し余裕ができ、スポーツジムに通い始めました。運動不足の解消、脳の活性化、そして、お腹からしっかり声が出せるように、というのが始めた理由です。

私にとって、詩吟は楽しさ（上達、仲間、発声）、健康維持と認知症予防の三点のメリットがあると感じています。

会員の皆様が感じているメリットこそが、会員増強の決め手になると思います。お知り合いを誘ってみてはいかがでしょうか。

（木南　春樹）